

演題：CAD／CAM 補綴物による可能性

演者：井上亮平

日付：2015年11月24日

抄録

1970年代後半頃から歯科医療の分野にCAD／CAMが用いられるようになり、更にこの10年で目覚ましい進化をしている。スキャナーの計測精度やミリングマシンの加工精度も向上しており加工物の適合精度も向上したことにより、今まで加工が困難であったジルコニアなどが容易に加工出来るようになった。

CAD／CAMを歯科技工のツールとして使いこなす為には、使用するマテリアルの知識力、コンピューターを扱う技術力が必要となってくる。更にこれからもデジタル化が進んでいく技工業界だからこそ、今、歯科技工士として必要な事があると思う。

諸先生方のご意見を頂き、今後の臨床に活かしていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。